



# 日本女医学会誌

公益社団法人日本女医学会  
復刊第246号  
2022年9月25日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

## 創立120周年を迎えた日本女医学会が ジェンダー平等の推進に 尽力するべき理由

会長 前田佳子



1902年に前田園子らによって設立された日本女医学会は、2022年4月に創立120周年を迎えました。発会の趣意は「学術上、処世上の知識交換のほか、互いに気脈を通じることによって社会における女性の地位向上をはかるとともに、その中枢団体として全国の女医を集結させて、国家邁進の一翼を担う」とされており、120年前から女性のエンパワーメントを目指していました。日本女医学会はその趣意に基づいて、かつてはさまざまな女性団体や女性連盟とともに活動し、女性のために社会を変えるべく選挙にも積極的に関わっていました。しかしいつの間にかその気運は失われてきてしまいました。

ジェンダー平等はSDGs（国連が2030年までに達成することを提唱している持続可能な開発目標）の17のゴールの一つに掲げられています。2022年7月に世界経済フォーラムが発表した日本のジェンダーギャップ指数（男女格差の度合いを示す指標）は0.650で、146カ国中116位と最低レベル、東アジア・太平洋地域で最下位でした。日本全体としてジェンダーギャップ解消のための努力は不十分であり、日本女医学会の活動も120年の間に明らかに後退してしまいました。

1885年に荻野吟子が女性で初めて医師国家資格を取得（公許女医第1号）し、その後の女性医師数は日本女医学会が設立された1902年には百余名、1970年に11,319人（全

医師数の9.5%）、2020年には77,546人（22.8%）と右肩上がりに増えてきています。にもかかわらず、OECD（経済協力開発機構）加盟34カ国における日本の女性医師比率は最下位です。なぜなのでしょう？ 2018年に発覚した医学部受験のジェンダー差別が、長年にわたって女性医師数を抑制してきたことも原因の一つです。しかし、女性自身も仕方がないと諦めて、大きな声を上げてこなかったのも事実です。そう、これは医師だけの問題ではないのです。

日本では高校生までのいわゆる中等教育は男女ともに96%以上が就学していますが、高等教育である大学への進学率は男性が高く、教育におけるジェンダー不平等は解消されていません。男女の賃金格差は主要先進国で日本は最も大きく、男性の12カ月分の賃金を女性が得るには2022年では16カ月かかっています。日本政府が「2030年までに社会のあらゆる分野で指導的地位に女性が占める割合が30%になるように」と定めた女性管理職比率の数値目標202030は断念され、203030にリセットされてしまいました。

日本女医学会は発会の趣意に立ち返り、日本に根づくジェンダー不平等解決のために声を上げ、一步を踏み出す必要があります。私たちは異次元のスピードでジェンダー平等を推進してまいりましょう！

## 日本女医学会誌（復刊第246号）もくじ

巻頭言	前田佳子 (1)	新役員ご挨拶	牛山元美、宮坂晴子、 望月善子、大関ひろ美、村上京子 (6)	ホームページリニューアルのお知らせ (13)
第67回定時総会		創立120周年記念式典・祝賀会のお知らせ	(8)	映画紹介 青木正美 (14)
概要・議事・表彰	広報部 (2)	公開講演会抄録	(9)	本の紹介 前田佳子 (14)
支部本部連絡会報告	大谷智子 (3)	第67回定時総会議事録	(10)	日本女医学会アーカイブ <sup>®</sup> (15)
受賞者の言葉	山崎トヨ、藤岡真知子、 津田さやか、佐々木禎子、宮川史 (3)	国際女医学会通信 <sup>®</sup>	前田佳子 (12)	理事会議事録 (16)
キャリア・シンポジウムのお知らせ	(5)	北から南から <sup>④</sup>	竹並麗 (13)	長寿社会福祉事業オンラインセミナーのお知らせ (20)
新役員紹介	(6)			寄附者一覧 / 会員動静 / 編集後記 (20)

# 第67回 公益社団法人日本女医会 定時総会

## 概 要

2022年5月15日、第67回定時総会は、公益社団法人日本女医会事務局に於いて、定刻通り午前11時00分に開会された。

なお、今年度も、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を鑑み、インターネット回線、及びWeb会議用アプリZOOMを用いての開催となった。

開会にあたり出席者の音声ほかの出席者に伝わり、画像を通して意思の疎通ができることが確認された後、花岡和賀子副会長による開会の辞が述べられた。司会の芳川た江子理事からオンライン総会における本年度の議決方法の説明があった。その後2022年3月31日現在の会員総数950名に対し出席者数78名、記名委任者数486名、合計564名であり、公益社団法人日本女医会定款第18条、19条の規定により、出席が会員総数の2分の1以上に達しており、本総会が成立する旨の報告があった。その後、2021年度中に物故された会員8名の方々の冥福を祈り、黙祷が捧げられた。

会長挨拶では、日本女医会が今年創立120周年を迎え、日本女医会百年史の追補版を作成中であること、covid-19やロシアのウクライナ侵攻の影響、各支部の活動等が述べられ、会員数増のための協力が呼びかけられた。

報告事項は、馬場安紀子副会長による「第67回定時総会資料」に基づき行われた。

ナショナルコーディネータ報告は、前田佳子監事から今年台湾で開催される第32回国際女医会議と役員改選についての報告、2021年以降のコロナ禍の状況での西太平洋地域会議における活動と2021年8月に韓国で開催された西太平洋地域会議の報告があった。

次に、議長団の選出が行われ、会長一任で議長に渡邊弘美会員（東京都支部連合会）、議事録署名人に山崎トヨ会員（栃木支部）が任命され、議事が開始された。

その結果、承認第1号から第3号までが承認されたほか、報告第1号から第3号の賛同を得て、すべての審議、及び報告が終了した。

## 議 事

- 承認第1号 2021年度事業報告承認の件
- 承認第2号 2021年度決算報告承認の件
- 承認第3号 2022年度役員選挙の結果及び新役員の承認について
- 会計監査報告
- 報告第1号 2022年度事業計画の件
- 報告第2号 2022年度予算の件
- 報告第3号 次期及び次々期総会開催に関する件

## 表 彰

表彰では、荻野吟子賞が、山崎トヨ氏（栃木支部）に授与された。

学術研究助成は、藤岡真知子氏（長崎大学原爆後障害医療研究所 大学院生）、津田さやか氏（富山大学附属病院産婦人科 助教）、佐々木槇子氏（名古屋市立大学大学院医学研究科 大学院生）に授与され、最も優れた研究として藤岡氏に第6回山崎倫子賞が授与された。

第7回溝口昌子賞は、宮川史氏（奈良県立医科大学皮膚科 講師）に授与された。

各賞の授与が行われた後、本年度の永年会員8名の氏名が読み上げられた。

表彰の終了後、馬場安紀子副会長により閉会の辞が述べられた。

（文責 広報部）

## 支部本部連絡会報告

前会長 大谷智子

第67回公益社団法人日本女医会総会前の10時よりオンラインで支部本部連絡会が開催されました。支部長や代表のご協力を得て昨年より多い19支部24名のご参加を頂きました。

はじめに役員選挙結果の報告から東海や北陸、関西以西の理事の立候補がなく、今後の日本女医会発展のためにも理事の擁立が課題であることを共有いたしました。

次に2022年1月30日に鳥取県日本女医会代表の松田隆子理事に尽力いただいたブロック懇談会について報告し、今後のブロック懇談会の協力を支部の皆様にお願ひしました。

最後に司会進行を行っていた大谷から日本女医会

の歩みと現状をスライドで紹介し、会員数の減少が今後も問題であることを提起し、その改善について貴重な意見を頂くことができました。女性医師数は増加しているものの日本女医会の会員数は減少している現状に対し、地方支部の皆様から多くの意見を頂きました。最も多い訴えとしては入会を勧めるための利点を伝えることができないということでした。各地方でも女性医師支援の対策は十分に確立されており、これらの支援は重要視されなくなっています。日本女医会に対しての若い世代の期待を明確化し、存在価値のある存続が命題であると考えた次第です。

ご多忙にも関わらず、ご参加頂いた支部長および代表の皆様へ深謝を申し上げます。

## 受賞者の言葉

### 荻野吟子賞

#### 荻野吟子賞受賞によせて

山崎小児科医院 栃木支部長（総会時）

#### 山崎 トヨ

この度、令和3年度の荻野吟子賞を拝受いたしました。受賞にあたり、お力添えを頂いた日本女医会の諸先生並びに会員の皆様に深謝いたします。

荻野吟子先生は、多くの苦難を切り拓き女性医師の道に今に残された先駆者の第一人者であり、婦人の社会的地位向上にも貢献された方です。身に余る受賞に感無量です。真に有難うございます。

私は昭和44年に東京女子医科大学を卒業、母校で9年間研鑽後、昭和54年に故郷にて開業し、地域医療に従事しております。「医師という専門職は女性に向いている」とも言われています。医師になれたこと、日本女医会会員であることに感謝をしながら日々努力しております。地方の女性医師ということで、身の丈以上の経験もさせて頂きました。医師としての仕事以外に、大学の非常勤講師（講座：小児保健）、県及び市の婦人問題懇話会委員・青少年問題協議会委員、NHK宇都宮委員等。

幸運なことに、大学在局中も開業してからも、医師として

男性との差別は余りなかったように思います。理解ある教授と同僚のお陰でした。そして私の場合、夫の理解と家族の協力あっての今があります。健康な体に産み育ててくれた両親と、現在まで私を支えてくれた多くの方々へ感謝あるのみです。

荻野吟子先生はドラマチックで素晴らしい人生を62歳で閉じられました。81歳の私なのですが、この度の受賞を励みに今の私にできることがあればもう少し頑張りたいと思っています。

### 山崎倫子賞

#### 骨髄異形成症候群におけるアザシチジンによるDNAメチル化変化の検証

長崎大学原爆後障害医療研究所  
原爆・ヒバクシャ医療部門 血液内科学研究分野大学院生

#### 藤岡 真知子



この度は栄誉ある第6回山崎倫子賞を賜り、大変光栄に存じます。日本女医会理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様へ心より御礼を申し上げます。

骨髄異形成症候群 (Myelodysplastic syndrome; MDS) は血球の異形成、血球減少、白血病の前がん状態という特徴を有する造血器悪性腫瘍です。MDSにおける標準的な治療法であるアザシチジンは、MDSの病状悪化を抑える効果を有しています。アザシチジンはMDS細胞のDNAメチル化状態に変化をもたらすことで薬理作用を発揮することが明らかになっていますが、治療標的や分子マーカーの同定には至っていません。

私どもは、DNAメチル化解析の従来法の問題を解決した次世代型の手法を用いてMDS細胞を解析しました。そして、DNAメチル化プロファイルについて新たな知見を得るとともに、アザシチジンの治療効果と関連する特徴的なDNAメチル化変化を同定しました。

今回、日本女医会のご支援により、本研究をさらに発展させるべく、アザシチジンによるDNAメチル化変化と遺伝子発現の関連について評価を行っております。そして、本研究成果を臨床に還元することを目指し、日々の研究活動に邁進してまいります。

最後になりましたが、今回このような研究の機会を与えてくださった血液内科学研究分野教授 宮崎泰司先生、人類遺伝学教授 吉浦孝一郎先生をはじめ本研究に関わった方々にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

## 学術研究助成

単一T細胞トランスクリプトーム解析から、ヒト妊娠子宮における制御性T細胞の分化誘導過程を明らかにする

富山大学 学術研究部医学系  
産科婦人科学教室 助教

津田 さやか



この度は、第42回日本女医会研究助成を賜り、誠にありがとうございます。日本女医会会長をはじめ理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様に深くお礼申し上げます。私は富山大学産科婦人科学教室に入局し、県内外の医療機関で研修を行いました。2014年に大学院に入学し、T細胞免疫の観点から妊娠維持機構と妊娠合併症発症のメカニズムを解明するといったテーマで基礎研究を行っております。

胎児は母親にとって半分他人ですが、母子間免疫寛容が成立しているため、母体の免疫から拒絶されません。母子間免疫寛容が破綻すると、流産や妊娠高血圧症候群につながるといった仮説がございますが、詳細なメカニズムは解明さ

れておりません。

これらの疾患は医療ニーズがありますが、胎児への影響の懸念から創薬イノベーションが生み出されにくいといった特徴があります。ところが、近年自己免疫性疾患合併妊娠が増加しており、結果として妊娠中使用の安全性が認められつつある免疫調整剤が複数あります。本研究課題から、治療標的となる分子が同定できれば、既存薬からのドラッグリポジショニングによる免疫学的治療の開発につながるのではないかと考えております。

末尾となりますが、ご指導をいただきました富山大学学長の齋藤滋先生、富山大学産科婦人科学教室教授の中島彰俊先生、富山大学免疫学教室教授・岸裕幸先生を始め、研究グループの先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

## 学術研究助成

光線力学的療法（PDT）の腫瘍免疫増強メカニズムの解明と免疫チェックポイント阻害薬による相乗効果について

名古屋市立大学大学院医学研究科  
消化器・代謝内科学 大学院生

佐々木 槇子



この度は学術研究助成を賜り大変光栄に存じます。日本女医会会長をはじめ、理事の先生方、選考委員の先生方、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

私は2019年より名古屋市立大学大学院に入学し基礎研究を開始しました。今では広く日常診療で用いられる内視鏡技術の一つ狭帯域光観察に学生時代感銘を受けた私が、同じく光科学の光線力学的療法（Photodynamic therapy ; PDT）に関する研究に従事できたことは、とても幸運でした。

PDTは、腫瘍選択的に集積する光感受性物質の投与と特定波長のレーザー照射を組み合わせた抗癌治療です。化学放射線療法後の再発食道癌に対するPDTが保険適用となり、優れた臨床効果が報告されています。その作用機序は未解明な部分も多く、局所の直接的な癌細胞破壊のみならず、癌免疫への関与が注目されています。癌免疫の活性化により遠隔転移へも有効な可能性（アブスコパル効果）、また免疫チェックポイント阻害剤との併用による抗腫瘍効果の増強効果が期待されます。PDTの基礎的解析を行い、PDTの新たな可能性を見出し、日常診療で多くの患者さんに還元できるような研究ができればと思っています。

大学院卒業後は臨床業務と併行しての研究活動となり、両立ができるか不安を抱えていた時期に本受賞の連絡をいただきました。今回の受賞を励みに頑張りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。

## 溝口昌子賞

奈良県立医科大学皮膚科 講師

### 宮川 史



この度は第7回溝口昌子賞を賜り深く感謝申し上げます。選考に関わって頂いた日本女医会の関係者の皆様、推薦を快諾して頂いた芳川た江子先生（北摂総合病院皮膚科部長、日本女医会理事）、清島真理子先生（岐阜大学医学部皮膚科前教授）に心より御礼申し上げます。

私は滋賀医大皮膚科で研修を修了後、大学院在学中に京

都大学に国内留学させて頂き、そこでヒト $\gamma$  $\delta$ 型T細胞の抗原認識機構に関する研究に従事いたしました。その後米国国立衛生研究所（NIH）に留学し、皮膚GVHDモデルマウスを用いた自己免疫反応/末梢性免疫寛容のメカニズムの解明に取り組みました。帰国後は奈良医大に在籍し、これまで培ってきた基礎免疫学の知識をベースに、診療のかたわら全身性エリテマトーデスなどの疾患モデルマウスを用いた免疫疾患の病態解明、ならびに重症薬疹患者のバイオマーカーの探索等の臨床研究を並行して行って参りました。丁寧に診療を行う中で生じてきた臨床的な疑問を研究で解決し、得られた研究成果を患者さんに還元するというスタンスで臨床、研究ともに重視する姿勢を今日まで貫いています。

今回これまで長年にわたり積み上げてきた研究業績と研究活動が認められ、同じ皮膚科医として憧れの存在であった溝口先生の賞を頂けることになり大変光栄に存じます。この賞を励みに、今後益々精進したいと考えていますので、今後とも御指導御鞭撻のほどどうかよろしくお願い申し上げます。

## 第15回 医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム

# 「令和における男女共同参画」

日 時：2022年10月29日（土）

15:00～16:00

開催方法：ZOOM ウェビナーによる

オンライン開催

講師：林 伴子先生

（内閣府経済社会総合研究所 次長）

参加ご希望の方は、Eメールを

[jmwa1902@gmail.com](mailto:jmwa1902@gmail.com)

までご返信ください。

下のQRコードからもお申し込みいただけます。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

### ※ QRコードからの場合

- ①スマートフォンのQRリーダーから、下記のQRコードを読み取ってお申し込みください。
- ②事務局より当日参加用のURLを返信いたします。シンポジウム前日までに返信がない場合には申し込みメールにてお問合せください。
- ③シンポジウム当日は、送信されたURLをクリックしてご参加ください。



第15回 医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム

## 令和における男女共同参画

2022.10.29 [土] 15:00～16:00

ZOOMによるオンライン開催

定員：100名（登録先着順） 10月3日受付開始

視聴  
無料

■ 開会の辞 前田 佳子（日本女医会会長）

第1部 15:00～15:40

### もはや昭和ではない

～日本社会の変容と男女共同参画の課題～

内閣府経済社会総合研究所 次長 林 伴子  
座長 前田 佳子（日本女医会会長）



第2部 ディスカッション 15:40～16:00

林 伴子 前田佳子 青木正美（日本女医会副会長）  
宮坂晴子（日本女医会理事）

■ 閉会の辞 青木正美（日本女医会副会長）

司会 木村 友美（日本女医会理事）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため事前収録のセミナーをZOOMで配信致します。

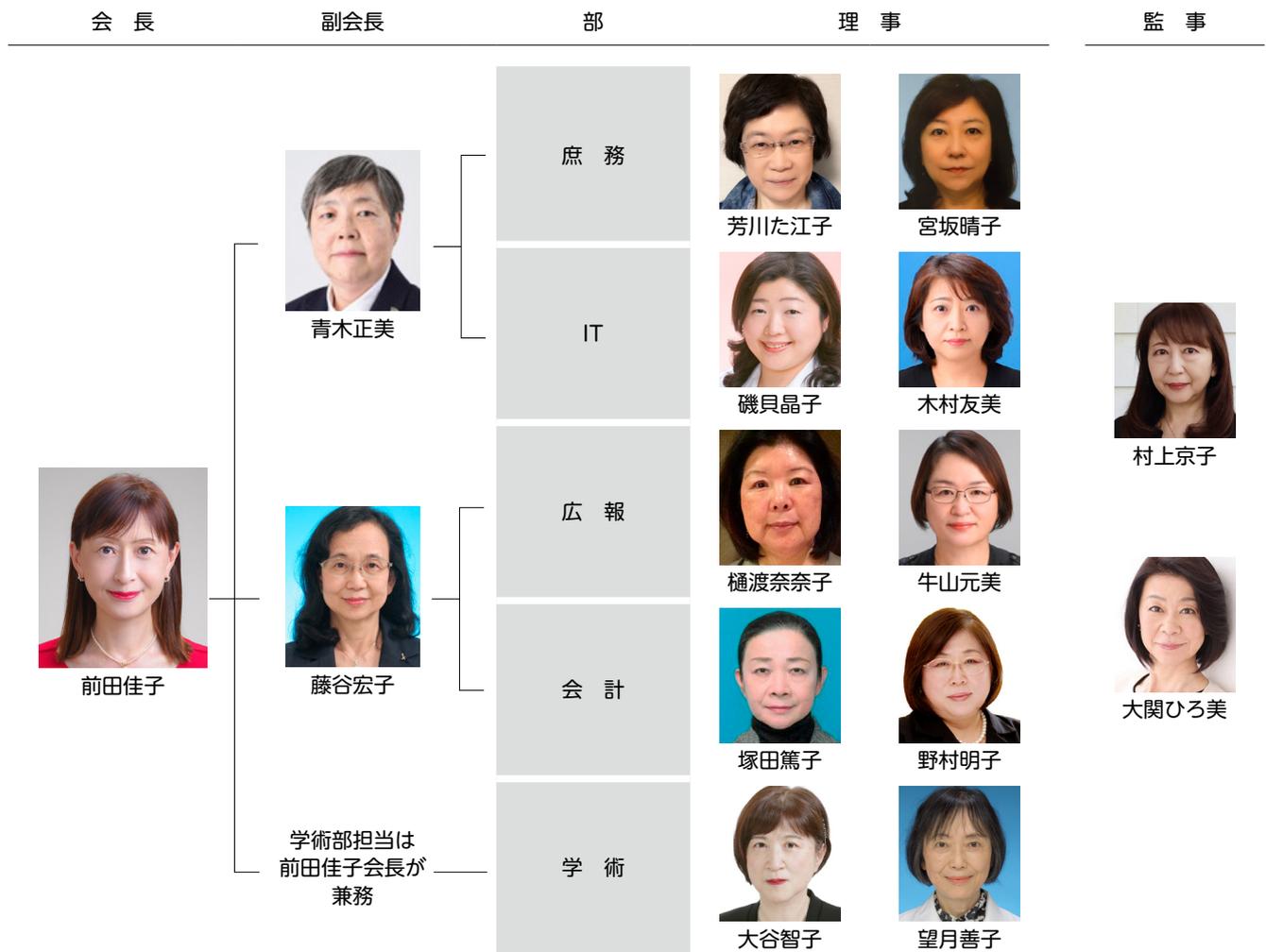
参加のご登録は下記メールアドレスまでお願い致します。お申し込み後、当日参加用のURLをEメールにてお送り致します。（詳細は裏面をご覧ください）

申し込み先 [jmwa1902@gmail.com](mailto:jmwa1902@gmail.com) 公益社団法人日本女医会

主催 公益社団法人日本女医会 共催 公益社団法人 日本医師会

公益社団法人日本女医会 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-3-19 101-1 千駄ヶ谷 TEL 03-6447-0820

## 2022年度 新役員紹介



## 新役員ご挨拶

### 新理事に就任して

#### 牛山元美

神奈川支部長の小関温子先生よりご推薦いただき、理事に就任させていただきました。伝統があり、品格の高い日本女医会で役員として務めさせていただく機会を賜り、誠にありがたく、光栄に思っております。

私は、1986年に高知医科大学（現高知大学）を卒業後、昭和大学循環器内科に入局。心臓リハビリテーションを専門とし、国立精神神経研究所国府台病院（当時）の心身医学部研究生としても学び、1995年の阪神淡路大震災時には心療内科医として神戸市灘区で医療支援に従事しました。1997年より神奈川県相模原市のさが

み生協病院に勤務しております。

2011年の東日本大震災後、福島県内での健康相談会や当直業務などの医療支援を始め、甲状腺がん患者さんの支援に参加。その活動を通じて、当会の青木正美先生と知己を得、お誘いいただき2016年に入会。その年の総会時に福島の甲状腺がん問題についてお話させていただき、その後、香港やニューヨーク、韓国での国際女医会議でも発表する機会を賜り、先輩方のお力を借りて、何度も貴重な経験を積むことができ、心より感謝しております。

今年1月に福島の甲状腺がんのお子さんたちが裁判を起こしました。いろいろなご意見があると思いますが、甲状腺がんに苦しむお子さんたちの存在に目を向け、裁判の行方に関心を持っていただければ幸いです。

先輩方に学びながら、会のためにできる限りの尽力をさせていただき所存です。

よろしく願い申し上げます。

## 理事就任のご挨拶

### 宮坂晴子

この度、日本女医会理事に選任頂きました、埼玉支部の宮坂です。

私は昭和63年埼玉医科大学を卒業後、埼玉医科大学総合医療センター眼科に入局し、平成6年に鴻巣市で開業して現在に至ります。

日本女医会とのご縁は、埼玉支部長をされていた深井登起子先生からのご紹介でした。年齢も診療科も違う先生方と出会い、様々な事業活動を通じ勉強させていただきました。

平成21年に埼玉県からの委託事業である女性医師支援センター開設に携わり、平成23年から現在まで埼玉県医師会女性医師支援検討委員をさせていただいております。

今後は、諸先生方のご指導のもと微力ではありますが、女医会のために尽くしたいと思っております。どうぞ指導ご高配賜りますようお願い申し上げます。

## 新理事就任のご挨拶

### 望月善子

この度、由緒ある日本女医会の理事として初めて選任いただきました栃木支部の望月善子です。1983年に鳥取大学を卒業後、大阪大学産婦人科学教室に入局、フランス政府給費留学を経て1995年より獨協医科大学にお世話になり、2016年に宇都宮市にもちづき女性クリニックを開業し現在に至っています。獨協医大では、産科婦人科教授ならびに女性医師支援センター長を拝命し、女性医師のみならず子育て中の医師が働きやすい環境整備や院内病児保育の設立に尽力しました。診療面では、女性特有の悩みに対しトータルヘルケアを念頭に取り組んでいます。

丁度、去年の今頃は東京オリンピックの真最中でした。男女のアスリートの比率が半々で、史上最もジェンダーバランスの取れた大会だったそうです。スケート

ボードでメダルに輝いた若い女子選手たち、鮮明に記憶に残っています。才能ある人材が従来の常識に捉わられることなく、新しいことにどんどんチャレンジできる社会になれば、スポーツ界だけでなく日本経済も活性化するのではないかと期待します。もちろん、医療界もです。

医師として生涯社会に貢献するというプロフェッショナルリズムを貫く姿勢は、創立120年を迎えた本会の支柱に他なりません。女医会の皆様の臨床力・教育力・研究力といった実力を支える組織であるよう努めるとともに、ライフステージに応じて女性医師が活躍できる環境整備に向けた情報発信・情報共有に注力したいと思います。学術と女性の健康支援事業委員会を担当いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 監事就任のご挨拶

### 大関ひろ美

今期より会員外監事として会員外から参画させていただき大関ひろ美です。大変歴史が長く社会的に意義ある活動を続けておられる皆様とご一緒させていただくことになり大変光栄です。

日頃私は、特定社会保険労務士・人事コンサルタントとして雇用者である企業・各組織や、働く皆さんの発展を支える仕事をしております。企業等の中では、社員の心身に配慮する健康経営が、益々注目をされるようになっていきますし、高齢化もあって在職中に治療と仕事を両立する社員が増え、医療とのかかわりがより深くなっています。

また、企業等の活動は、当然に法令を遵守する姿勢が求められますので、多様な場面で法令等を解釈し、かつ、一般通念や常識と照らしたうえでバランスの取れたアドバイスをする場面が多くなっております。

こうした経験から、日本女医会の活動に関与させていただき、私自身が学び成長するとともに、お役に立てる役割を果たしていきたいと心がけております。

会員の皆様においては、新型コロナウイルス感染症・新しい感染症による環境変化や、社会の構造変化と医療提供の複雑さ、医療技術の高度化などに日々真摯に取り組まれておられ、本当に尊敬する職域でご活躍と存じます。

そうしますと、私の及ばないことが多々あると思いま

すが、どうぞよろしく願いいたします。

## 新監事就任のご挨拶

### 村上京子

この度、監事として選任いただきました村上京子です。

1986年に名古屋大学を卒業後、研修医・大学院と10年余の勤務医生活を経て2002年に名古屋市でむらかみ

眼科クリニックを開業いたしました。この間愛知県支部の理事・副支部長、愛知県医師会広報委員会・調査室委員会委員、名古屋市瑞穂区医師会副会長を歴任し、現在名古屋市瑞穂区医師会会長の任に当たっております。

家庭的には4人の社会人の息子がおり、夫は勤務医です。

本会の2期4年の理事の経験を活かし新監事として日本女医会に貢献できますよう努力してまいります。よろしく願いいたします。

## 公益社団法人日本女医会

### 創立百二十周年記念式典・祝賀会のお知らせ

日本女医会は2022年4月をもって創立120周年を迎えることが出来ました。これもひとえに、これまで当会を支えてくださった会員並びにご指導・ご協力賜りました先生方のお陰と深く感謝申し上げます。創立120周年を迎えた慶事を記念し、会員の先生方とその喜びを分かち合うとともに、日本女医会の歴史を広く社会にお伝えしたく、下記の通り記念式典および祝賀会を開催することといたします。お忙しい時期ではございますが、会員の皆様の御出席をお待ちしております。同封の「記念式典・祝賀会」のお知らせ用紙にてお申し込みください。

日 時：2022年12月11日（日）  
10：30～14：00（予定）  
会 場：昭和大学上條記念館 富士桜  
式 典：10：30～11：30  
記念講演会：11：40～12：20  
祝 賀 会：12：30～14：00 軽食をご用意しております。  
アトラクション 声楽：田中美智代  
会 費：20,000円（予定）



加えて、日本女医会のこれまでの歴史的意義、現在の社会的使命、今後の当会事業の継続にご理解を頂き、日本にジェンダー平等の未来を創り出すために「創立120周年の寄附」をお願いすることに対しても、ご賛同・ご協力賜りますようお願い申し上げます。詳しくは同封の振込用紙付き「寄附金のお願い」をご覧ください。よろしく願いいたします。

## 第67回日本女医会定時総会 公開講演会

## 「災害時のトイレの話 もっと知りたい」

第65回定時総会で予定されていた公開講演会「災害時のトイレの話」はCOVID-19パンデミックの影響で中止になりました。NPO法人日本トイレ研究所代表の加藤篤さんによる公開講演会は、オンライン開催の形ではありましたが2年を経て実現できた事を嬉しく思っています。当日の視聴者は57人でした。機器トラブルで講演開始が大幅に遅れてしまい、視聴の皆さんにご迷惑をおかけしました事を心よりお詫び申し上げます。

災害大国日本では災害時の備え、特にトイレに関する備えが大切である。近年は地球温暖化に伴って自然災害が急増しており、さらには想定される南海トラフ地震に対してもトイレ問題に関しては日頃からの準備が重要である。日本のトイレは1914年に水洗便器が登場してから100年以上が経過し、住宅の水洗トイレ普及率は90%を超え、温水洗浄便座の普及率も80%を超えている。日本人の1日の水の使用量は平均200Lで、その2割強の45Lはトイレで使われている。しかし、一度災害が起こればそのトイレが使えなくなることを考えたことがあるだろうか。

災害時には停電、断水、給排水管の損傷、汚水処理施設の機能停止などで水洗トイレは使えなくなる。水が使えないトイレで排泄をすると、便器内は汚物が溢れてしまい感染症の原因ともなる。実際に避難所で問題となった設備の1位はトイレであり、

体育館などではそもそもトイレが備えられていないこともあり問題である。アンケートによれば、災害が起こったときには30%の人が3時間以内に、70%の人が6時間以内にトイレに行きたくなくなったと答えている。しかし、



東日本大震災で仮設トイレが届くまでにかかった日数は、3日以内が34%、4～7日が17%、1カ月以上は14%であった。上下水道の復旧には1～3カ月かかり、下水処理場の復旧には3～15カ月もかかっていた。このためトイレが心配で水を飲むのを控えたという人も多く、脱水、熱中症やエコノミークラス症候群の発症が懸念される。

切れ目ないトイレ環境の確保のためには、発災からの時間経過に応じて屋内トイレ（携帯トイレ、簡易トイレ）と屋外トイレ（マンホールトイレ、仮設トイレ）の準備が必要となる。家庭で携帯トイレを準備する場合、4人家族なら4（人）×5（回）×7（日）=140回分が目安となる。国土交通省は男女ともに快適に使用できる仮設トイレに「快適トイレ」という概念を提唱し、標準仕様を定めている。災害時のトイレ対策としてやるべきポイントは次の5つである。

- ①トイレ対策の司令塔を明確に
- ②防災トイレ計画・マニュアルの作成
- ③時間経過に応じて複数の災害用トイレを準備
- ④災害用トイレの使用方法を周知
- ⑤災害用トイレを実際に試してみる

加藤氏はこの講演をきっかけにトイレの事をもっと考えて欲しい、そして自宅では携帯トイレの準備をするとともに、是非とも平時に使ってみて欲しいと締めくくられました。

公益社団法人日本女医会 第67回定時総会  
online 公開講演会

**災害時のトイレの話  
もっと知りたい**

災害が想定している時や、トイレ問題は個人差でもありません。  
加藤氏代表の豊富な体験を伝授していただきます。

2022年  
視聴  
無料  
5月15日(日) 13:30 ~ 14:45

ZOOM ウェビナーでのオンライン開催  
参加申込 Email: [jmwa1902@gmail.com](mailto:jmwa1902@gmail.com)  
詳しくは裏面をご確認ください(申込期間 4月20日～5月13日)

<講師>  
NPO 法人日本トイレ研究所  
代表理事 加藤 篤

※2019年シンポジウムを経て、2020年にNPO法人日本トイレ研究所を設立。「災害時トイレ緊急準備講座」を開催し、災害時にも安心し、できる限りの備えが大切だと参加者から好評を博している。

〒118-0001  
東京都荒川区西日暮 1-18-19  
日本女医会 5階 会議室  
TEL: 03-5621-7010 FAX: 03-5621-7011  
E-mail: [office@jmwa.or.jp](mailto:office@jmwa.or.jp)

<主催・お問い合わせ>  
公益社団法人日本女医会  
TEL: 03-5621-7010 FAX: 03-5621-7011  
E-mail: [office@jmwa.or.jp](mailto:office@jmwa.or.jp)

## 公益社団法人日本女医会 第67回定時総会議事録

2022年5月15日（日）午前11時00分より、公益社団法人日本女医会事務局（東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目3番19号 ロワレル千駄ヶ谷202号室）に於いて、インターネット回線、及びWeb会議用アプリ、ZOOMを用いて第67回定時総会が開催された。

開会にあたり、ZOOMにより出席者の音声ほかの出席者に伝わり、また、画像を通して意思表示ができることで、出席者が一同に会すると同等に適宜意見の表明が互いにできる状態となっていることが確認された。

### 開会の辞

花岡和賀子副会長より、開会の辞が述べられた。

司会の芳川た江子理事より、オンライン総会における本年度の議決方法の説明、2022年3月31日現在の会員総数950名に対し、出席者数78名、記名委任者数486名、合計564名であり、公益社団法人日本女医会定款第18条、第19条の規定により、出席が会員総数の2分の1以上に達しており、本総会が成立する旨の報告があり、開会を宣した。

### 黙祷

2021年度中に物故された会員8名の方々の冥福を祈り、黙祷を捧げた。

### 会長挨拶

議案の審議に先立ち、大谷智子会長より挨拶があり、在任期間中の活動、日本女医会が今年創立

120周年を迎え、日本女医会百年史の追補版を作成中であること、現在のCOVID-19やロシアのウクライナ侵攻の影響、各支部の活動等が述べられ、および会員数増のために、女性医師の視点を社会活動に活かすための協力を会員に呼びかけられた。

### 報告

- 1) 馬場安紀子副会長より、「第67回定時総会資料」に基づき会員動静、第66回定時総会での審議の結果、会費納入状況、理事会役員、理事会開催日、部会開催日、各賞の選考委員会開催日等に関する報告が行われた。
- 2) ナショナルコーディネータの前田佳子監事より、国際女医会の役員と今年台湾で開催される第32回国際女医会議と役員改選について報告があった。そのほか、2021年以降のコロナ禍の状況での西太平洋地域会議における活動と2021年8月に韓国で開催された西太平洋地域会議の報告があった。

引き続き議長団、及び議事録署名人の選出に移った。

### 議長団選出

司会より参加者に対して議長団、並びに議事録署名人の推薦について会長一任と諮ったところ、異議がなかったため、議長に渡邊弘美会員、議事録署名人に山崎トヨ会員、永友祥子会員が指名され、選出された。議長から出席者数お

よび委任数の内訳が報告された。

### 議事

#### 【承認第1号】

##### 2021年度事業報告承認の件

馬場安紀子副会長より、「2021年度事業報告」に基づき説明が行われた。

#### 【承認第2号】

##### 2021年度決算報告書承認の件

花岡和賀子副会長より「2021年度収支計算書」に基づき説明が行われた。

#### 【会計監査報告】

前田佳子監事より、2022年4月に慎重かつ厳正な会計監査を実施し、その結果、適法かつ正確であることを確認した旨が報告された。

議長は承認第1号、及び第2号について採決に入り、異議がなかったため議長は、承認第1号、承認第2号議案は原案の通り承認された旨を述べた。

#### 【承認第3号】

##### 2022年度役員選挙の結果及び新役員承認について

山口いづみ選挙管理委員長から、今回は各地区すべてにおいて立候補者が定員内であったため、無投票選挙となったことが報告され、2022年度期の理事の氏名が読み上げられた。監事については、2022年度役員選挙において立候補者がなく、また外部監事の沖村英佳監事も任期満了により退任するため、役員選出に関する規程第21条2項にしたがい、2021年度第7回理事会において、選出した村上

京子理事と外部監事の候補者の大関ひろ美氏を上程した。

その後、議長が立候補者と選出監事の承認の可否を求めた。その結果、承認多数と認められ、山口委員長は下記の2022年度役員が承認されたことを宣した。

#### <理事>

樋渡奈奈子（宮城支部）  
磯貝 晶子（神奈川支部）  
塚田 篤子（栃木支部）  
前田 佳子（神奈川支部）  
宮坂 晴子（埼玉支部）  
望月 善子（栃木支部）  
青木 正美（中央支部）  
大谷 智子（荒川支部）  
木村 友美（豊島支部）  
野村 明子（葛飾支部）  
藤谷 宏子（大阪支部）  
芳川た江子（大阪支部）  
牛山 元美（神奈川支部・  
全国区選出）

#### <監事>

村上 京子（愛知県支部）  
大関ひろ美（外部監事）

#### 【報告第1号】

##### 2022年度事業計画の件

馬場副会長より、定時総会資料「2022年度事業計画」に基づき説明があり、2021年度末に内閣府に提出した旨の報告があった。

その後、議長は報告第1号についての賛同の可否を問い、とくに発言はなかったため、報告第1号を賛成多数とする旨を述べた。

#### 【報告第2号】

##### 2022年度予算の件

花岡和賀子副会長より「2022年

度収支予算書」に基づき説明が行われ、2021年度末に内閣府に提出した旨の報告があった。

また、最後に当会の運転資金増強のための寄附金の呼びかけがあった。

その後、議長は報告第2号について賛同の可否を問い、とくに発言はなかったため報告第2号を賛成多数とする旨を述べた。

#### 【報告第3号】

##### 次期及び次々期総会開催地に関する件

大谷智子会長より、次回の第68回定時総会は2023年5月21日に栃木県宇都宮市において開催される予定である旨が述べられた。

また次々期は、東京での開催予定である旨が述べられた。

議長は、以上をもって第67回定時総会の議案のすべての審議が終了した旨を述べて、審議を終了した。

#### 表彰

議事進行が早く執り行われたことより、表彰については予定とは異なる順で行われた。

##### 荻野吟子賞

山崎トヨ（山崎小児科医院）

山崎トヨ会員より挨拶が行われた。

2) 功労会員 該当者なし

3) 永年会員 全8名

永年会員を代表して花岡和賀子副会長より挨拶があった。

4) 研究助成

#### 〈第42回学術研究助成〉

藤岡真知子

（長崎大学原爆後障害医療研究所  
大学院生）

津田さやか

（富山大学付属病院産婦人科助教）

佐々木槇子

（名古屋市立大学大学院医学研究科  
大学院生）

#### 〈第6回山崎倫子賞〉

上記3名のうちから、藤岡真知子氏に授与された。

#### 〈第7回溝口昌子賞〉

宮川 史

（奈良県立医科大学皮膚科 講師）

研究助成を受賞された4名の受賞者より挨拶があった。

#### 閉会の辞

馬場安紀子副会長より、閉会の辞が述べられた。

午後12時11分閉会

## 国際女医会通信

The Letter from Medical Women's International Association (MWIA)



27

## 国際女医会議 2022 に現地参加してまいりました (1)

National coordinator 前田佳子

WHO（世界保健機構）によれば、感染第7波の真っ只中にある日本の1週間の新型コロナウイルス新規感染症患者数は97万人となり、世界で最も新規感染症患者の多い国になってしまいました。政府は保健所の負担を軽減するために、感染者全数把握を止めることを検討しています。新型コロナ対策「日本モデル」とは何だったのか、3年目になってもまだ医療提供体制が整っていないのはなぜなのか、今こそ検証するべきです。

## 第32回国際女医会議

テーマ	Young Women Young Doctors: Our Inspiration Our Future
開催日程	2022年6月24日（金）～26日（日）
開催場所	台北国際会議場（Taipei International Convention Center ; TICC）
開催形式	ハイブリッド

2019年に開催された国際女医会創立100周年から3年が経過し、COVID-19パンデミックの中ハイブリッドで開催された第32回国際女医会議に台湾で参加してきましたので、2回にわたって報告致します。

日本が所属している西太平洋地域では、2ヵ月に1回会長かNCによるオンライン会議を行っており、4月9日の会議では、台湾は入国時に10日間の隔離措置が義務付けられているとされていました。しかしその後、台湾が外国人渡航者へのビザの発行を中止したため、国際女医会からすべての参加者はオンライン参加登録にするようにと連絡がありました。ところが、事前登録の最終期限である5月31日に、台湾女医会会長から現地に招待したいので都合をつけてもらえないか、とのメールが来ました。国際会議まで約3週間ではありましたが、せっかくのお誘いなので有給休暇を取って参加することにしました。

台湾を訪問された方はご存知かと思いますが、日本国民は観光目的で90日以内の滞在ならビザは不要です。しかし6月の時点では台湾国内で新型コロナ感染者が増加していた

ために外国人渡航者の入国を禁止しており、台湾CDCの特別許可の下ビザの申請が必要でした。白金にある台湾領事館でビザの申請を行い、渡航2日前に手にするというというギリギリのスケジュールでした。渡航前72時間以内にPCR検査を受け、陰性証明書の提出も要求されました。

本来であれば7日間のホテル隔離が必要であったため、いわゆるバブル方式での行動が義務付けられました。6月22日に台湾に入国し、一般の人とは別のルートで準備されていた車に乗り、車内でPCR用の唾液を採取し、検体を病院に届け、そのままホテルに運ばれ、裏口から部屋に案内されました。その後もホテルでは宿泊しているフロアに拘束され、朝食と夕食はルームサービス、自由に外出することは許されませんでした。2日に1回は自分で抗原検査を行い、検査結果は写メをとって提出、帰国2日前にはPCR検査（日本入国で必要）を受けました。

台湾に到着した日は特にイベントはなく、西太平洋地域担当の副会長 Desiree Yap と久しぶりに対面での再会を喜び、これからの会議について意見交換をしました。2/23からの詳細は次回をお楽しみに。



第4回

北から  
南から

## 埼玉支部の懇親会にて

埼玉支部  
竹並 麗

令和4年7月10日(日)第64回日本女医会埼玉支部の総会講演会懇親会を開催しました。総会講演会は埼玉会館で、懇親会は併設の「ビストロやま」で行いました。懇親会は令和元年以来の来賓をお招きしての開催でした。私にとっても支部長として初めての規模の大きな懇親会でした。埼玉支部の懇親会では毎回縁のある音楽家に楽器の演奏等をお願いしています。今年のご夫婦でハーブとギターの演奏を予定していましたが新型コロナウイルスに感染し直前に中止しました。7月8日には安倍晋三元首相が奈良県で応援演説中に銃撃され死亡しました。新型コロナウイルス感染症も再び増加に転じ当日は参議院議員選挙投票日でした。ご多忙にもかかわらず我々埼玉支部のために時間を割いて出席していただいた大野元裕埼玉県知事、松本吉郎

日本医師会長(埼玉県初)、金井忠男埼玉県医師会長、前田佳子会長に来賓のご挨拶をいただきました。前田会長の挨拶の一部「ジェンダーギャップ解消のため日本以上に他国が努力している。」が一番心に刺さりました。秋田県、岐阜県で女性医師会長が誕生し、埼玉県の地区医師会でも女性役員は徐々に増加傾向にありますが更に早いスピードで我々が力を合わせ変革していかななくてはと感じました。



## 公益社団法人日本女医会のホームページリニューアルのお知らせ

今年(今年)は日本女医会が120周年を迎える年になりました。そのタイミングでホームページを大幅にリニューアルいたします。

2020年の新型コロナウイルスのパンデミックにより、世界中で一気にIT化が進みました。そんな世界の潮流と共に、日本女医会でも2021年からIT部が創設され、すべての講演会は一般の方々にも配信されるようになりました。また理事会をはじめとして、全ての公的な催しがオンライン開催となりました。

これからの日本女医会は、公益に資するような医療情報の発信をできる限り広げたいと思います。そのプラットフォームがなんと言ってもホームページであり、Youtubeでの講演会の配信やTwitterなどのSNSでの情報発信など、広く皆さんに親しんでいただくようにしたいと思っています。

また新しい試みとして、日本女医会のホームページの中に、日本全国の日本女医会の支部にページを割り当て、会員間の連絡や情報告知などに自由に使用していただき、バーチャルな空間で全国的な日本女医会の繋がりを持てればと思っています。

その他にも各種の連載、また会費などの払い込みなども含め、質の良い情報と利便性を高め、会員の皆様にも一般の皆さまにも使い勝手の良いホームページにしていきたいと思っていますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



## アフガニスタン・パキスタンで活躍された故中村哲医師のドキュメンタリー完全版 「荒野に希望の灯をともし」を観ながら

副会長 青木正美



1995年ごろラジオ番組に出演していた中村哲医師を知り、直接話を聞いてみたくて中村氏のアフガニスタン報告会に行った。そこで人間が生きてゆくのに最も大事なものは衛生的な水であり、そのためにアフガニスタンで井戸を掘っている、という話をうかがった。

2回目に中村氏の話をついたのはアメリカの同時多発テロの後にブッシュ大統領がアフガニスタンに攻撃をした頃だった。中村氏はアメリカの攻撃について、「世界で最も富める国が世界で最も貧しい国に総攻撃をかける。狂っていやしないか。アフガニスタンは今、経験したことのない壮絶な干ばつの中で飢えや病で毎日子ども達が死んでいる」、と開口一番話された。中村氏は100の診療所よりも一本の水路を作れば命が助かる、という信念で水路を作っておられた。

私は同時代を生きる医師として、中村氏に人として生きる意味を何度も教えられたと思っている。私たちは医師である前に人である。人として何が

できるのかを考えよ、と。

「荒野に希望の灯をともし」を観ながら、中村氏を失った現実にも何度も打ちひしがれた。しかし中村氏が生きておられたらこう言うであろうと。一人一人が出来ることを持ち寄って、希望の灯をともしのだ。立ち止まっている場合ではない、と。中村氏への限りない尊敬と感謝を胸に、私も希望の灯をともし旅に出かけようと思う。



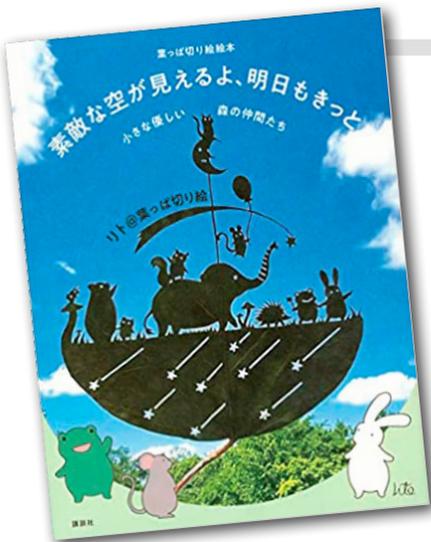
## 本の紹介

葉っぱ切り絵絵本

素敵な空が見えるよ、明日もきっと 小さな優しい森の仲間たち  
I'm sure you'll see a beautiful sky tomorrow too.

リト @ 葉っぱ切り絵 (著) 発行：講談社 1,760円

会長 前田佳子



葉っぱ切り絵アーティストのLito (リト) さんによる作品集第3弾。初作品集は2021年5月発刊の「いつでも君のそばにいる」、第2作目は2021年12月発刊のメッセージカードBOOK「離れてい

ても伝えたい」、そして待望の第3作目が8月8日に発刊されました。

LitoさんはADHD(注意欠陥多動性障害)を克服するために、2020年から独学で制作を始めました。繊細な落ち葉を思いがけないデザインに変えるという行為が、集中力を磨くのに役立つことを発見したのだそうです。その類まれな切り絵技術が生み出す作品は美しいだけでなく、1枚の葉っぱの中から私たちにstoryを語りかけます。

そして今回の作品集は1話完結のドラマのように、それぞれの作品に物語がついて絵本仕立てになっています。カエル、ウサギ、ネズミ、リス……などの森の小

さな優しい仲間たちが片手に乗る葉っぱの中に、まるで動いているかのような大きく広がる世界を作り出しています。その葉っぱの作品の向こうには、いつも素敵な空が見えています。ぜひ手にとって、心温まる作品を感じてください。

新しい作品は毎日Instagram (@lito\_leafart) と Twitter (@lito\_leafart) に投稿され、世界中からも注目されています。日本女医会創立120周年記念誌の表紙にも作品を提供していただくことになっていますのでお楽しみに!



# J M W A R C H I V E S

## 日本女医会 アーカイブ #015 欠食児童救済募金運動と欠食児童 給与食の献立及び調理に就て

日本女医会雑誌 第46号  
昭和6年(1931)年12月刊



上) 昭和初期の日比谷公園の大音楽堂(中央)

左) 1929年(昭和4年)10月のウォール街大暴落で混乱する米国ニューヨーク

今回は、東京総合婦人会の呼びかけで行われた欠食児童救済のための街頭募金活動記を紹介します。

1929年の世界大恐慌の影響は日本にも及び、1930年から1931年にかけて、いわゆる昭和恐慌と呼ばれる経済危機のために、巷には学校に弁当を持参できない欠食児童が溢れました。

昭和と言うと遠い昔の出来事ようですが、令和の現代、7人に1人の子どもが貧困状態と言われ、民間の「子ども食堂」が全国で6000か所を超えるなど、子どもの貧困が再び問題になっています。日本女医会もこの問題に真摯に向き合っていかなければなりません。

文末には「欠食児童給与食の献立及調理に就て」と題して、出来る限り軽費かつ栄養価が不足しないよう、苦心して作った7日分の欠食児童給与食の献立と調理法も掲載されています。

### 欠食児童救済募金運動

東京聯合婦人会が欠食児童救済の爲に都下の各婦人團體千八百名を動かして、市内七十餘ヶ所の目貫の場所に街頭募金デーを行ったのは、女性のみが保持する尊き受性愛の現はれとして實に美はしく又目醒しきことであつた。

十一月十五日それは恰も七五三の祝ひの日とて、その年頃の子を持つ親は、愛し子の行末幸多かれと着飾らせて氏神にお詣りをする日である。

一方生活の下層にあえいでる貧民階級の子供達は、彼等は着飾る着物はおろか三度の食事さへ満足に口することが出来ないのである。然もこれは年々歳々増加し殊に今年の深刻なる不景氣は欠食児童の急激な増加を示した。將來の日本を背負うて立つべき第二の國民が此栄養不給に陥れる結果は考へるだに恐るべく患ふべきことである。

當日は午後九時東京市役所前に参加者一同集合した。

最初東京聯合婦人会委員長吉岡彌生女史の挨拶あり、次で府知事及市長の激励の辭があつた、これに勇氣を鼓舞された一同は更に木内きやう子氏の發聲による、「母の心今ぞ動く、行け、行け、行け」の和唱で元氣づけられてそれぞれ受持の部所に着いた。

募金運動参加者は夫れぞれ「捧げよ欠食児童の爲めに」と染め抜いた手拭を肩から掛け、募金箱を持つ者と小旗の箱を持つ者と一組になつて、辻々に立ち、道行く人に喜捨を求めた。

吾々日本女医會は日比谷公園を受持つた。

道行く人は多いけれど箱に金を投じてくれる人は割合無いものである。日本人は慈悲心なきか、左に非ず、未だこういふ運動に理解なき爲めである。殊に婦人に於て此感が深いのは情なく思はれた。

數百圓もする毛皮に身を包み、ハイヒールの足もと軽く、最新流行に五分のすきもないモガは輕蔑した様な眼付で外れて仕舞ふ。お宮詣りの歸りらしい、自分も女兒も美々しく着飾つた下町風の婦人は入れてくれないのが多い。「お嬢さんのお祝ひに一つ入れて下さい」など少し厚かましく出ると仕方なしに五錢か十錢入れるのもあつた。

午後四時になると一同その斑の事務所へ引き上げて斑長立會の下で箱を打ら抜き募金の結果を計算して斑長に渡し初めて自由行動を取つたのは日もトツブリ暮れて美松のネオンライトが美しく輝きそめた頃であつた。

我が女醫會は参加者少なく、募金運動も午後から初めたので募金金額三十七圓〇二錢也。他の團體に比し收穫の少なかつたのは止を得ないが、來年若し行ふ場合はもつと多數に参加してよき成績を挙げ度いものである。

然し乍ら、たとへ金額の多寡は幾許でも、その奉仕の精神は尊いものであると思ふ。

我が女醫會の参加者は評議員中の有志で左の人々であつた。

杉田、相川、山田、島峯、中山、兒玉、下山、多川

尚島峰、兒玉兩氏は可愛いお嬢さんを應援に連れて來られた。

尚ほ數日後東京府商工獎勵館で牛塚府知事及同夫人臨席の下に参加者の懇談會があつたが、其時募金の成績發表があつた。

街頭募金總額六千九百七十九圓二十八錢

外に寄附金若干ありて總計約一萬圓の金額が此の運動によつて得られたのであつた。

尚ほその募金の一部は、豫て決定した市外尾久町に於ける三百人の欠食児童の爲、一週間晩食を一回づ、供することゝなつて早速給食を開始した。

殘餘の大部分は慎重に審議の上全市の欠食児に割當てる筈である。

次に記すのは東京聯合婦人会加盟の、みすず會が、東京聯合婦人会の依頼をうけて、出来る丈輕費でしかも栄養價の不足せぬ様苦心して作った欠食児給食の献立である。

これを尾久町の児童達にも給與したのである。(S、T)

なお、原稿中の用語・語句につきましては、当時のままとさせていただきますので、ご了承下さい。

(文中敬称略。引用箇所は一部常用漢字の表記としました。文責：広報部)

公益社団法人日本女医会  
**((理事会議事録))**  
 2021年度第7回理事会議事録

## 1. 日時・場所

1. 日時 2022年3月19日(土)  
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者
- 1) 出席者

理事 大谷智子	花岡和賀子
青木正美	磯貝晶子
木村友美	塚田篤子
中田恵久子	野村明子
馬場安紀子	樋渡奈奈子
藤谷宏子	芳川た江子

- 監事 沖村英佳 前田佳子
- 2) 欠席者
- 理事 村上京子

## 2. 継続審議事項

1. 第67回定時総会について(継続)  
芳川理事より、講演会の時間と座長挨拶が前田監事であることの確認が行われ、前田監事と青木理事から、講演会のzoomウェビナーはライブで行うことが確認された。  
永年会員について、生年月日が不明の会員について調べる旨が確認された。
2. 創立120周年記念誌(日本女医会史追補版)について(継続)  
馬場副会長より、締め切りを延長した件について説明があり、今後のスケジュールや方針についての確認が行われた。大谷会長から、女医会以外の「この年の主な出来事」「この年のノーベル生理学・医学賞」「医事年表」について質問があり、馬場副会長から委員会で検討し、統一資料から事務局が整える方針が出された。
3. HPリニューアルについて(継続)  
青木理事より、遅れと進捗についての説明が行われ、引き続き継続審議事項となった。

## 3. 審議事項

1. 役員選挙の結果報告と監事選出の

件(承認)  
大谷会長より、監事が外部監事一人になることと定款についての説明があり、外部監事1名とする旨が承認された。

### 2. 支部・本部連絡会の案内の件

(承認)  
大谷会長より、案内状と出欠ハガキ案についての説明があったほか、樋渡理事から質問があった連絡会員について、支部・本部有志であるとの説明があった。

### 3. 2022年1月、2月会計報告承認(承認)

藤谷理事より説明があり、2022年1月、及び2月の会計報告が承認された。大谷会長から、給与には新規職員の2月分は入っていない旨の説明があった。

### 4. 2021年度第6回理事会議事録承認(承認)

野村理事より説明があり、2021年度第6回理事会議事録が承認された。

### 5. その他

・代表理事選出方法について(継続)  
沖村監事から代表理事選出について質問があり、前回は郵送投票であった投票方法について、次回理事会までに会長と選挙管理委員長が決めることとなった。

## 4. 報告事項

### 1. 各部、NC報告

1) 庶務部報告  
・芳川理事より会員動静について報告があった。

2) 広報部報告  
・樋渡理事より会誌245号について、訂正を載せる旨の報告と、原稿不足を補うためのいくつかの提案がなされた。早急に案を決め、3月31日締め切りで執筆をお願いすることとなった。

### 3) 学術部報告

・磯貝理事より第39回荻野吟子賞、第6回山崎倫子賞を含む第42回学術研究助成及び第7回溝口昌子賞の選考結果についての報告があった。大谷会長より今回、

溝口昌子賞の応募基準を満たしていなかった候補者がいた問題が提議され、今後は理事がルールを作り、責任者が選考前に確認すべきとした。

### 4) ナショナルコーディネータ報告

・前田監事より6月に台湾でハイブリット開催が予定されている第32回国際女医会議についての報告があり、参加が呼びかけられた。

## 2. 各委員会報告

### 1) 男女共同参画事業委員会

・磯貝理事より来月までに案を決めたい旨と、講師推薦の呼びかけがあった。

### 2) 女性の健康支援事業委員会

・樋渡理事より、女性の健康支援事業講演会についての説明があり、今回の反省を踏まえ、次回は早期に準備する旨の報告と次回のテーマ提案の呼びかけがあった。  
・アンケートの結果についても説明があった。

### 4) 小児救急事業委員会

・中田理事より、先日行われた藤谷理事司会による講演会についての感想が述べられ、同様の講演会を女医会でも取り入れたらどうかという提案がなされた。

## 3. 対外的団体活動

### 1) 国際婦人年連絡会

前田監事より、女性差別撤廃条約選択議定書の批准についての説明がなされ、「すみやかな批准を求める請願」についての署名を5月の終わりまでに集めることとなった。また国際婦人年連絡会が加盟している団体「女性差別撤廃条約実現アクション」へ日本女医会も加盟してほしいという提案があった。

### 2) 国連NGO国内女性委員会

前田監事より、3月15日に行われた国連女性の地位委員会(CSW)のサイドイベント開催についての報告があった。

## 4. その他

- 1) お見舞いメールについて

3月16日の福島県沖を震源とする地震のお見舞いメールの件が諮られ、被害が大きかった宮城県・福島県の会員に向けた内容で出すこととなった。

- 2) 事務局の新担当者による挨拶が行われた。

以上

**公益社団法人日本女医会**  
**((((理事会議事録)))**  
**2022年度第1回理事会議事録**

## 1. 日時・場所

1. 日時 2022年4月16日(土)  
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者
  - 1) 出席者
 

理事	大谷智子	花岡和賀子
	青木正美	磯貝晶子
	木村友美	塚田篤子
	中田恵久子	野村明子
	馬場安紀子	樋渡奈奈子
	藤谷宏子	村上京子
	芳川た江子	
監事	沖村英佳	前田佳子
  - 2) 欠席者 なし

## 2. 継続審議事項

1. 第67回定時総会について(承認)  
芳川理事より、総会のタイムスケジュールと役割分担案について、議長・副議長の任命、受賞者の表彰がスムーズに中継されるよう支部内でも協力するなどの確認が行われた。青木理事からは、青木クリニックをスタジオとして活用し、時間内に収めるようスケジュールを組む旨の説明があった。
2. 創立120周年記念誌(日本女医会史追補版)について(継続)  
馬場副会長より、年表の形式が整い次第、原稿を見ていただく予定であることが報告された。
3. 監事選出の件について(承認)  
大谷会長より、任期満了の沖村監事から新しい外部監事として、社会保険労務士の大関ひろ美先生をご紹介

介いただき、お願いするとの報告があった。外部監事が欠席の場合、理事会開催が困難になるため、日本女医会の規定に則り、今回理事を退任される理事の中から監事を選出した。

4. 代表理事選出方法について(承認)  
大谷会長より、山口選挙管理委員長が提出の前回と同じ方式が諮られ、了承された。
5. HPリニューアルについて(継続)  
青木理事より、新役員決定後に一括リニューアルを目指したいとの説明があった。

## 3. 審議事項

1. 支部・本部連絡会の議案と開催方法について(承認)  
大谷会長より、支部長および代表への案内と、支部・本部連絡会の議題について意見を求められた。案内についてはメールと事務局からの案内状送付によって行い、大谷会長が議題をまとめる旨が承認された。
2. 国連NGO国内女性委員会の2022年度の役員登録について(承認)  
前田監事より、役員改選前であるため、前年度と同じく、大谷会長、磯貝理事、前田監事の3名で提出したいとの提案があり、承認された。
3. キャリア・シンポジウムの開催について(継続)  
磯貝理事より、開催方法(会場、オンライン、ハイブリッド)について審議を求められ、各理事から意見が出された。
4. 2022年3月会計報告承認(承認)  
藤谷理事より、説明があり、2022年3月の会計報告が承認された。支出の印刷製本費については次回の理事会で説明予定である。
5. 2021年度第7回理事会議事録承認(承認)  
野村理事より、説明があり、2021年度第7回理事会議事録が承認された。
6. 2021年度事業報告および決算諸表の監査について(承認)  
前田監事より、沖村監事と監査を行い、問題が無い旨報告があり、承

認された。

## 4. 報告事項

1. 各部、NC報告
  - 1) 庶務部報告  
・芳川理事より、会員動静について報告があった。会員数については要調査となった。
  - 2) 広報部報告  
・樋渡理事より、会誌245号について、事務局とのコミュニケーション不足に起因する問題点が挙げられ、木村理事より、対策として事前の編集会議をしっかりと行う方針が示された。青木理事から、クオール薬局から出展の申し出があり、趣意書送付の指示があった。
  - 3) 学術部報告  
・磯貝理事から、HP掲載計画を新年度から再開したいとの報告があった。
  - 4) IT部報告  
・青木理事から、HPリニューアルでは、各支部のページも企画しており、会員増・理事の立候補者増を目指したいとの説明があった。5月15日の3部構成で行われる支部・本部連絡会、定時総会、講演会について、担当者と事前の打ち合わせを行う旨の報告があった。
  - 5) ナショナルコーディネータ報告  
・国際女医会西太平洋会議のビジネスミーティング(4月9日開催)報告  
前田監事から、6月23日に開催される香港女医会の設立50周年祝賀オンラインミーティングへの参加の呼びかけと、6月24日に台湾で開催される国際女医会議で副会長が交代になることが報告された。
  - ・国際女医会のニュースレターへの日本の活動報告  
ブロック懇談会の開催、女性の健康支援事業講演会の開催、ウクライナへのロシア侵攻に対するステートメントの日本女医会HPへの掲示、国連女性の地位委員会(CSW66)のサイドイベント、3月16日の福島地震を挙げた。

・第32回国際女医会議について

参加の呼びかけと登録早割受付が4/30までに延期されている旨報告があった。

2. 各委員会報告

1) 男女共同参画事業委員会

・磯貝理事より、キャリア・シンポジウムの開催は10/15(土)を予定しており、6月には内容を決定し、7月にチラシを作成、9月の会誌に同梱し、各大学には夏休みが終わる頃、案内する旨が報告され、引き続き講師推薦の呼びかけがあった。

2) 長寿社会福祉委員会

・馬場副会長より、これまでの理事からの協力に対する感謝と次期の理事会へ期待の言葉が述べられた。

3) 女性の健康支援事業委員会

・樋渡理事より、次回講演会の進捗状況についての報告があった。

3. その他

1) 若年層の性暴力被害予防月間について

・前田監事から、成人年齢が18歳に引き下げられ、若年層の性暴力被害の深刻化が懸念されており、日本女医会HPに掲示した旨の報告があった。

2) 「エリザベス・ブラックウェルの自伝」監修料について

・KADOKAWAから監修料の振込予定の報告があった。

3) 地震お見舞いについて

・大谷会長から、福島支部長の都もとこ先生から、地震お見舞い状へのお礼のハガキをいただいた旨報告があった。

4) 理事挨拶

・今回が最後の理事会となる馬場副会長、花岡副会長、中田理事、村上理事からの挨拶が行われた。

以上

公益社団法人日本女医会  
(((理事会議事録)))  
2022年度第2回理事会議事録

1. 日時・場所

1. 日時 2022年6月18日(土)  
午後3時30分～午後5時30分
2. 場所 ZOOMによるオンライン会議
3. 出欠席者

1) 出席者

理事	前田佳子	青木正美
	藤谷宏子	磯貝晶子
	牛山元美	大谷智子
	木村友美	塚田篤子
	野村明子	樋渡奈奈子
	宮坂晴子	望月善子
	芳川た江子	

監事 大関ひろ美

2) 欠席者

監事 村上京子

2. 新年度開会の辞

1. 会長所信表明

前田新会長より、所信表明が行われ、創立120周年を迎える日本女医会が発会の時の理念に立ち戻り、異次元のスピードで日本のジェンダー平等を推進すべく、改めて役員協力を求めた。

2. 理事・監事挨拶

新理事3名・新監事1名を含む出席役員14名により、自己紹介が行われた。

3. 継続審議事項

1. 創立120周年記念誌(日本女医会史追補版)について (継続)

前田会長より、馬場前副会長と相談した結果、役員交代を機に、会長・副会長、引き継ぎのために前広報部員、会計部部長、庶務部部長からなる新委員会の発足が発表された。9月発刊予定だったが遅れているため11月を目指す、カラーページの量によって30～70万円と費用に幅があるが今年度の予算の40万円程度に収めたい、印刷会社の決定は委員会に一任してもらいたい旨が述べられた。

会長の希望により葉っぱ切り絵アーティスト・リトさんの作品を表紙などに使用し、その費用10万円は会長の寄付とすることが承認された。

2. HPリニューアルについて (継続)

青木副会長より、7月中のリニューアルオープンを目指すとの発表があった。

4. 審議事項

1. 青木正美副会長の承認 (承認)

前田会長より、臨時理事会で選出された青木副会長の承認が求められ、出席役員全員によって行われた。青木副会長は筆頭副会長である旨も発表された。

2. 新役員名簿の確認 (承認)

青木副会長より、新役員名簿の確認が行われた。

3. 役員会務分掌 (承認)

前田会長より、新理事の会務分掌が発表された。広報部は会誌と広告、IT部はインターネット関係と、役割分担が明確になった。

4. 役員担当地域について (承認)

前田会長より、各支部を担当する理事が発表された。

5. 第67回定時総会の報告と反省

(承認)

青木副会長より、今年度の成果として、初めて外注を使うことなく、支部本部連絡会と定時総会のzoomミーティングを行うことができた点が挙げられ、通信トラブルのため、公開講演会の開始が遅れたことが反省点として挙げられた。次回はさらに支部の意見を汲み取るような会を目指したい旨が述べられた。

大谷理事より、今回の出欠はがきについて改善すべき点の指摘と、会員から寄せられた意見が伝えられた。

6. 第67回定時総会時の公開講演会報告 (承認)

前田会長より、公開講演会アンケートの結果について説明があった。

7. 理事会開催日程の確認 (承認)

青木副会長より、2021年度第6回理事会で承認された理事会開催日日程の確認が新理事に向けて行われた。

また、次回理事会において、男女共同参画事業委員会、長寿社会福祉委員会及び女性の健康支援事業委員会の3委員会による、本年度の講演会日程案の提出が要請された。藤谷副会長より、会誌発行の年間スケジュール資料の提出も要請された。

#### 8. 7月以降の理事会の開催方法について (承認)

青木副会長より、7月の理事会を対面で行いたい旨が述べられた。

#### 9. 創立120周年記念事業について (継続)

前田会長より、日本女医会120年の歴史を多くの人に知らせると共に、寄付を集めるという2つの目的から、120周年記念の会を開催したい旨が述べられ、開催場所(昭和大学上條記念館)と費用、時期、想定人数、会費、行事内容などが提案された。またハイブリッドも視野に入れる旨も述べられた。

#### 10. 2022年度第1回

(4月) 理事会議事録承認 (承認)

(5月) 臨時理事会議事録承認

(承認)

青木副会長より説明があり、樋渡理事が報告事項を訂正し、承認された。

#### 11. 2022年4月・5月会計報告承認 (承認)

塚田理事より説明があり、2022年4月、及び5月の会計報告が承認された。

#### 12. その他

##### 1) 役員慶弔費の徴収について

(承認)

芳川理事より、役員改選後に役員から徴収する役員慶弔費等の内規と本部会費から行われる慶弔費等の内規についての説明が行われた。

##### 2) 国際女医会参加費補助額について (承認)

前田会長から、来週6月23日から26日に台湾で開催される国際女医会に参加するにあたって、補助金を例年通り支給する旨の説明が行われ、承認された。

##### 3) ホームページ役員写真掲載とLINEグループの件 (承認)

・青木副会長より、ホームページに役員の写真を載せる旨の説明が行われた。また、IT部が、理事会、部会及び委員会のLINEグループを設定したので、各グループで交流を開始するよう呼びかけがあった。

・前田会長より、部会・委員会の議事録入力フォームを用意するので部長・委員長が記載し、事務局に提出することと、部会・委員会は理事会の前までに適宜行うよう補足説明が行われた。

##### 4) 明治座会誌同梱広告の件 (承認)

藤谷副会長より、明治座からのチラシ同梱提案についての説明があり、検討することが承認された。

## 5. 報告事項

### 1. 各部、NC報告

#### 1) 庶務部報告

・青木副会長より、第67回定期総会議事録について役員間の共有が行われた。また、会員動静について会員増が課題であるとの説明があった。

#### 2) 広報部報告

・藤谷副会長より、9月25日発行予定の会誌246号への協力要請や次回理事会で年間スケジュールについて説明する旨の報告が行われた。

・前田会長より、秋に講演会開催を計画している場合は会誌246号に告知を出すよう指示があった。

#### 3) ナショナルコーディネータ報告

・前田会長より、台湾で行われる国際女医会について次回報告予定である旨が述べられた。

### 2. 各委員会報告

藤谷副会長より、新委員会に向けて年間計画を作成し、次回理事会で発表するよう要請が行われた。

### 3. 対外的団体活動

#### ・国際婦人年連絡会

前田会長より、国際婦人連絡会

の分野別委員会と加盟団体についての説明が行われ、来月までに、理事全員が、1つ以上の委員会に所属するよう要請があった。5月25日行われた国際婦人連絡会の総会と全体会の説明が行われた。また第2回2022年度常任委員会が6月15日に行われ、要望書を提出したとの報告があった。

#### ・国連NGO国内女性委員会

前田会長より、日本女医会が加盟している国連NGO国内女性委員会についての説明が行われ、役員登録書に会長と青木副会長、磯貝理事の3名を記載、提出したとの報告があった。

女性差別撤廃条約選択議定書の批准に向けた請願書についての報告があり、総提出署名数91,946筆であり、うち日本女医会で209人の署名を集めたことに感謝の意を述べた。

### 4. その他

#### 1) 新旧理事歓迎会について

・青木副会長より、可能ならば次回理事会時に新旧理事の歓送迎会を行いたいとの提案があった。

#### 2) 第68回定時総会について

・塚田理事より、第68回定時総会について次回理事会から審議を開始する予定との確認が行われた。

#### 3) 3委員会の講演会について

・前田会長及び藤谷副会長より、3委員会の講演会については、理事会での承認を要するため、テーマと講師の予定を早めに決定し、次回理事会に提出してほしい旨、要請が行われた。

以上

## 2022年度 長寿社会福祉事業オンラインセミナー

# 「認知症とフレイル」

日時：2023年1月29日(日) 13:00～15:00

開催方法：Youtube ライブ配信によるオンライン開催

講師：芳川浩男先生

(公益財団法人日本生命済生会日本生命病院特任副院長・  
脳機能センター長・脳神経内科主任部長、兵庫医科大学名誉教授)

事前登録は不要です。開始日時になりましたら、  
以下のURLからご視聴ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=zg2KPTH9WIE>

下のQRコードからのご視聴いただけます。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

※ QRコードからの場合

スマートフォンのQRリーダーから、右記のQRコードを  
読み取ってご視聴ください。



2022年度長寿社会福祉事業オンラインセミナー  
**認知症とフレイル**  
かけがえのない人生をより豊かなものにするには？  
2023年  
**1月29日(日) 13:00～15:00** **視聴無料**  
オンライン開催 (Live配信)  
\*参加申込は不要です。  
詳しい視聴方法は裏面をご覧ください。  
加齢に伴う認知機能や身体能力の低下を  
予防する食生活や生活習慣についてお話  
させていただきます。  
<講師> 芳川浩男先生  
公益財団法人日本生命済生会日本生命病院  
特任副院長・脳機能センター長・脳神経内科主任部長  
兵庫医科大学名誉教授  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-19  
ロワレル千駄ヶ谷202  
電話 03-6447-0820 FAX 03-6447-0821  
Email office@jmwa.or.jp  
<主催・お問い合わせ>  
公益社団法人日本女医会

### 寄附者一覧 (2022. 4月～8月末日) (敬称略)

以下のとおりお知らせいたします。  
ご協力ありがとうございました。

宮城 樋渡奈奈子  
神奈川 中島静恵  
京都 小林恭子

### 編集後記

2022年4月に創立120周年を迎え、  
第6波の中、オンラインで開催された  
総会により、前田佳子会長のもと、新  
体制が発足しました。会長の巻頭言、  
新役員挨拶、受賞者の挨拶、リニュー

アルされるホームページの紹介と内容満載の246号  
ですが『北から～南から～』では、日本医師会長に選  
出された松本吉郎氏をゲストに開催された埼玉支部総  
会につき、支部長の竹並麗会員にご寄稿頂きました。  
『アラブの春』が世論を動かしたように、マスメディア、  
SNS等の影響は大きく、かつて米国の名アンカーで  
中立性を固辞し、報道されたWalter Cronkite氏の言  
葉が響きます。日本女医会設立の主旨を尊重し、会員  
への啓発、相互研鑽を深めるべく広報活動に務めます  
ので、ご指導・ご協力の程宜しくお願い致します。最  
後に安倍晋三元総理ご逝去に際し、ご冥福をお祈り申  
し上げます。(樋渡奈奈子)

### 会員動静

(2022年4月1日～8月31日現在・敬称略)

	氏名	支部	卒年
入会	瀬戸口志保	世田谷	平成13年
	佐々木ひと美	愛知県	平成5年
	前田嘉子	宮崎	平成2年
退会	10名		
物故	中島好重	京都	昭和18年
	関根みよ	埼玉	昭和16年
	高木雅代	青森	昭和30年
	山田恵美子	愛知県	昭和23年
	深田チエ	茨城	昭和24年
	伊丹千壽子	大阪	昭和16年
哲翁富士子	長崎	昭和25年	

### 日本女医会誌

復刊第246号 2022年9月25日発行

編集人 樋渡奈奈子 発行人 前田佳子  
制作 あづま堂印刷製

発行所 公益社団法人日本女医会  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-3-19  
ロワレル千駄ヶ谷202

TEL 03-6447-0820 FAX 03-6447-0821

<http://www.jmwa.or.jp>  
e-mail : office@jmwa.or.jp

